

雪
ゆき

の

音
おと



Vol. 152

令和6年10月15日発行



巻頭言	石川県における最近の土木情勢	石川県 土木部長 桜井亘	1
特集	新潟県中越大震災から20年 ～あの記憶を後世に～	新潟県 長岡地域振興局 地域整備部 にもプロ	2
寄稿文	シンガポールで生活した5年間のエピソード	柳都トラベル株式会社 代表取締役 高橋剛士	6
お知らせ	海岸特別清掃活動 「みんなできれいにせんまいけ!大作戦 2024」	広報部会 広報委員会	10
お知らせ	技術セミナー 脱炭素時代における小水力発電の果たす役割 開催報告	技術部会 建設環境委員会	11
お知らせ	令和6年度 北陸支部防災演習	災害対策部会・総務委員会	15
	会員名簿 役員・委員会名簿	事務局	18
	編集後記	澤田伸也	

[題字]
元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙写真]
タイトル もみじ園の紅葉
撮影地 新潟県長岡市朝日

巻 頭 言

石川県における最近の土木情勢

石川県土木部長
桜井 亘



貴協会の皆様には、日頃より本県の社会資本整備にご理解とご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」は、輪島市、志賀町で最大震度7を記録する県政史上未曾有の大災害となり、道路の崩壊や液状化現象の発生のほか、河川、港湾など数多くのインフラ施設に極めて甚大な被害が発生いたしました。貴協会におかれましては、発災直後より、被災状況の確認や復旧に向けた調査設計にご協力いただき、心より感謝申し上げます。県としては、国による権限代行のほか、全国の自治体からの技術職員の派遣などのご協力もいただきながら、国、市町と一体となって、1日も早い復旧・復興に向けて、全力で取り組むこととしております。

この度の地震を踏まえ、県民生活の安全・安心の確保は、最優先で取り組むべき課題であると改めて強く認識をし、災害に負けない強靱な県土づくりを着実に推進する必要があると考えており、橋梁の耐震補強や落石対策などの防災対策、県水送水管の耐震化などを進めてまいります。

このほか、近年、大雨災害が激甚化・頻発化する中、県内では小松市の梯川流域や河北郡市において記録的な大雨による河川の氾濫や浸水被害が発生しており、流域治水の考えに基づいたハード・ソフト両面での対策を、関係機関と一体となって取り組むこととしております。

こうした取り組みに加え、人やものの交流の拡大に資する道路網や港湾などの広域交流基盤整備のほか、観光資産の整備・活用による県土の魅力づくりを進め

ていく必要があると考えています。

まず、道路網については、のと里山海道の4車線化、金沢外環状道路海側幹線、加賀海浜産業道路などの幹線道路網の整備を進めており、このうち、加賀海浜産業道路の白山市小川町から松本町区間が今年4月に完成しました。また、国道415号の羽咋市神子原町地内において、今年度より新たに事業着手しました。

また、港湾については、本県のものづくり産業を支える物流拠点である金沢港において、コンテナ船の大型化やカーボンニュートラルポートの形成促進など、港を取り巻く環境変化に対応するため、長期的視点に立った港のあるべき姿を描く「金沢港将来ビジョン」を今年3月に策定いたしました。引き続き、今年度は具体的な計画である港湾計画を改訂する予定としております。

さらに、本県の歴史・文化のシンボルである「金沢城公園」では、金沢城復元の総仕上げともいえる二の丸御殿「表向」の復元整備に取り組んでおり、今年度より建設工事に着手することとしております。二の丸御殿の復元は、金沢城の価値や魅力を格段に高めるのみならず、石川の匠の技や、漆塗りなど伝統工芸の次世代への継承、能登ヒバなど県産材の活用といった多面的な意義を有しており、復元整備を着実に進めてまいります。

最後になりましたが、今後とも、一層の技術の研鑽を図り、本県の発展へご尽力いただくことをお願い申し上げます。

新潟県中越大震災から20年 ～あの記憶を後世に～

新潟県長岡地域振興局 地域整備部
にもプロ

1. はじめに

2004年(平成16年)10月23日(土)午後5時56分、新潟県中越地方を襲ったマグニチュード6.8、最大震度7の地震で、長岡市および小千谷市に大きな被害が発生しました。旧山古志村(現長岡市)においては、広範囲にわたり地すべりが発生し、その影響で河川がせき止められた土砂ダムができ、大規模な土石流の発生が懸念され、24時間体制で水を抜く作業が行われました。また、信濃川沿いの県道長岡小千谷線の妙見地先で大規模な崩落があり、通行車両が巻き込まれ、賢明な救助活動でリミットとされた72時間を経過した中で、奇跡的に小さな子供が救出されました。さらに、当時の山古志村は、壊滅的な被害が発生し、全村民避難を余儀なくされるなど、中山間地の地震災害の甚大さを目の当たりにしました。

公共土木施設の被災状況は、当長岡地域振興局が管理している施設で、河川336箇所、道路599箇所など合計1,032箇所、災害査定決定額約580億円となりました。主な箇所としては、現在、妙見メモリアルパークとなっている、妙見の斜面崩落現場の対策、山古志地域周辺の道路復旧および、土砂ダムとなった箇所の復旧です。その傍ら、被災箇所を遺構として残す取組も併せて行われました。

寄稿依頼があった際、20年が経過し災害復旧・復興事業もすでに終了して、事業報告も多々あるため、現在長岡地域振興局で活動している、『にもプロ』のメンバーから、関連施設を調査してもらい、報告するスタイルとしました。

この『にもプロ』は、令和5年度に若手職員の声で立ち上がった局公認の魅力発信プロジェクトです。

『にもプロ』発起人は、なんと長岡地域整備部職員！

今回は、『にもプロ』発起人となった職員と、メンバーとして大活躍中の地域整備部職員4名で「中越大震災20年」をキーとした旧山古志村の魅力及び被災現場の今をお届けします。

2. 編集担当『にもプロ』の紹介

『にもプロ』の正式名称は、「長岡地域振興局の若手職員による長岡地域管内の魅力発信プロジェクト」と言い、にも(NIMO)は、Nagaoka(長岡)、Izumozaki(出雲崎)、Mitsuke(見附)、Ojiya(小千谷)の頭文字をとって名付けました。

長岡地域管内をもっと知ってほしい、訪れてほしいという想いで、メンバーが取材に赴き、Instagramにて管内の魅力発信を行っています。主な発信内容は、「長岡・出雲崎・見附・小千谷の魅力」、「長岡地域振興局の取組」です。



写真1 Instagram『にもプロ』プロフィール

今回は、2004年10月23日に発生した「新潟県中越大震災」から20年という節目の年に、全村避難から復興を果たした旧山古志村の被災地へ取材に行き、メンバーが発見した「山古志の魅力」と「被災地から学んだこと」を紹介していきます。

3. 被災地の今



写真2 『にもプロ』メンバー（地域整備部職員）

メンバーは、当時4～6歳、中にはまだ生まれていなかった職員もいます。そのため、過去に先輩方が残していった写真や資料集を読み解き、“被災地の今”を視察してきました。

ほとんどが、復旧工事によって整備が完了していましたが、中にはあえて、中越大震災の爪痕がそのまま残されている場所もありました。



写真3 妙見の土砂崩れ痕を見るメンバー



写真4 小千谷市山本 山辺橋

それらの現場を実際に見ることで、事前に見ていた震災当時の写真が頭をよぎり、「今地震が来たら……」とゾッとする場面が多くありました。

地震発生時から現在の姿になるまで、余震に加えて、降雪や雨など厳しい自然環境を持つ山古志での復旧作業は、想像以上に大変だったのではないかと感じます。そのような環境で行う作業では、何を優先すべきだったのか、各立場からどんな対応をしたのかが、土木職員として気になりました。

我々が普段携わっているインフラ整備において、50年100年と長期での視点をもって施工をすることの重要性や、いつ発生するか分からない自然災害に対して、日々の訓練・知識の蓄えの必要性等を改めて考えさせられました。

4. 山古志のおでかけスポット

まずは、全村避難から復興を果たした「旧山古志村」の魅力あるおでかけスポットを3つ紹介します。大人も子供も楽しめるスポットを紹介しますので、ぜひ山古志へお越しください。

(1) 山古志アルパカ牧場

山古志アルパカ牧場は、震災後にアメリカのコロラド州から「山古志が元気になる役に立てば」という気持ちを込められて送られたアルパカがいる牧場です。

油夫(ゆぶ)集落と種苧原(たねすはら)集落の2箇所に牧場があり、優良個体の血統維持を行うためオスとメスを分けて飼育しています。今回伺ったのは、メスのアルパカが飼育されている油夫集落の牧場。地域のアイドルとして大人気のアルパカを無料で見学でき、えさやり体験もできるスポットとなっています。



写真5 山古志アルパカ牧場

天空の牧場「山古志アルパカ牧場」へアルパカに会いに行こう！



写真6 食事中的アルパカ



写真7 赤ちゃんアルパカにエサやり体験

(2) やまこし復興交流館『おらたる』

やまこし復興交流館『おらたる』は新潟県中越大地震での体験や、復興に向けて積み重ねてきた経験を後世へ伝え、「ありがとう」の感謝と山古志の魅力为全国へ発信する交流施設です。



写真8 おらたる外観

数ある展示の中でも「地形模型シアター」は必見です。山古志の成り立ちと中越大地震発生から復旧までの記録を地形模型に映像を投影したプロジェクションマッピングで紹介しています。



写真9 地形模型シアター
(おらたる 2階展示室)

また、併設されたカフェでは山古志の食材を使った「やまこしカレー」やかぐらなんばんを使用した「小太郎サイダー」などご当地フードを楽しむことができます。山古志の交流拠点『おらたる』にぜひ足を運んでみてください。



写真10 小太郎サイダー
(ご当地食材かぐらなんばんを使用したピリ辛サイダー)

(3) 木籠(こごも)メモリアルパーク

山古志地域には、3つの震災メモリアルパークがありますが、今回は木籠メモリアルパークについて紹介します。木籠集落は、河道閉塞により集落ごと水没しました。この場所では、水没した家屋がそのまま残っており、中越大震災の爪痕を感じることができます。また、近くには直売所があり、新鮮な野菜や手作り品など、山古志ならではのものが売られており、地元の方との会話を楽しみながら山古志の魅力を感じることができます。

震災当時の様子を学び、山古志地域のあたたかさも感じることができる木籠メモリアルパークへぜひ足を運んでみてください。



写真11 木籠水没家屋



写真12 被災時当時との比較



写真13 視察中の様子

『にもプロ』のInstagram (@nimo_oideyo)にて、長岡地域振興局地域整備部(旧災害復旧部)の取組として「新潟県中越大震災」から20年をテーマに、被災地を比較及び視察した感想や施設見学の様子を、震災から20年の節目の日である「10月23日」に投稿予定です。こちらもぜひご覧ください。



写真14 『にもプロ』メンバー(地域整備部職員)及び『にもプロ』ポスター



写真15
Instagram『にもプロ』QRコード
@NIMO_OIDEYO

5. おわりに

今回は、新潟県中越大震災により「全村避難」した旧山古志村を取り上げました。山古志地区の人口減少は、多くの市町村の合併で誕生した現在の長岡市の中でも、他の地区と比べて著しく進んでおり、20年前の約35%まで減少しています。

日常生活の利便性等を重視すれば、中山間地は不便なところかもしれませんが、山古志には美しい棚田や闘牛、錦鯉の文化など、この紙面で紹介しきれない魅力がたくさんあります。地元の方によれば、災害復旧後の一時と比べれば来る人も少なくなったということですが、『にもプロ』の活動が、少しでも多くの方が山古志を訪れるきっかけになったらと思います。

地震後に整備されたインフラも少しずつ老朽化が進んでいます。山古志の皆さんのため、また山古志を訪れる方々の安全・安心のために、今後も定期的な点検や補修等を確実に続けていく必要があります。今後とも、関係する業界の皆様と力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。

シンガポールで生活した5年間のエピソード

柳都トラベル株式会社 代表取締役 高橋剛士

1. はじめに

この度は、寄稿文のご依頼をいただきましてありがとうございます。新潟市東区役所地下1階に店舗を構え、国内、海外、個人、団体旅行を扱う総合旅行会社です。2007年に開業し、2024年9月に17周年を迎えました。専門的な知識と経験とホスピタリティーを強みに、地域の皆様に信頼され、愛される旅行会社を目指しています。

今回、旅行業での経験の中で、私がシンガポールで生活した5年間のエピソードをご案内させていただきます。

皆様が関わっている建設業とは異なると思いますが、少しでも通ずるものがあれば幸いです。



2. 旅行業との出会い

私が旅行に興味を持ったのは、大学時代に友達に誘われてクリスマスシーズンに訪れたグアム島への海外旅行の時でした。飛行機の窓から初めて異国の街を見てワクワクしたことを鮮明に憶えています。日本は冬で寒いのに、“常夏”を体験した時の感動。旅行で五感が刺激され、新しい自分を発見する事ができました。

この時の事がきっかけで、旅行で得られる体験・感動・発見を多くの方に伝えられる仕事に就きたいと思うようになり、旅行業を目指す事となりました。

大学卒業後、故郷新潟県にある旅行代理店に就職しました。大手旅行会社とは異なり、小規模でスタッフは旅行業の経験が全く無い方々ばかりです。少し不安を感じつつも、旅行会社での一歩がスタートしました。

入社後、2日間の研修の後、すぐに営業に配属されました。小さな企業故、基本的に自分でお客様を探して旅行を受注し、自身で添乗して精算まで、全て一貫して行う仕事内容でした。

効率の悪い飛び込み営業の毎日で、今考えると、右も左もわからない新入社員にはハードルが高すぎる気がしましたが、私はそこで、沢山のお客様に会い、沢山の事を学ばせていただき、その会社では多くの経験をさせてもらい今となっては大変感謝しております。

添乗員で海外へ行った際に、ランドオペレーターという旅行のインバウンドを扱う仕事を知りました。

3. ランドオペレーターという仕事

ランドオペレーターとは、旅行業界において、現地での観光ツアーやアクティビティ、送迎、宿泊などのサービスを手配する業者や企業のことを指します。主に旅行代理店やツアー会社と提携し、訪問先での旅行者に対するサポートやガイドを提供するお仕事です。

インバウンドという言葉は皆様も最近よく耳にしますが、海外から日本へくる訪日外国人観光客旅行を示す言葉として使われております。

「外から内へ」という意味を持っており、旅行業界では海外へ行く日本人観光客を海外で受けるビジネスもインバウンドと言います。

「ランドオペレーターで働けば、海外に住みながら旅行に関わる仕事をして給料が貰える！インバウンドこそ、私が求めてきた仕事だ！」と思い、帰国後すぐにランドオペレーター数社を調べて応募し、幸運なことに採用され、海外駐在員としての道を進むことになりました。

転職した会社は、タイ、シンガポール、マレーシアに拠点をもち、バンコクに本店のあるタイ外資系旅行会社で、最初の勤務地は東京営業所でした。

ランドオペレーターのビジネスは B to B です。大手旅行会社の全国にある営業所へのルートセールスが中心で、新潟の会社で新規開拓の飛び込み営業をやっていた私には物足りない仕事内容でしたが、ルートセールスの方が明らかに効率が良いという事も学びました。

取扱国は、タイ、シンガポール、マレーシアの3国のみですが、プロの旅行会社がお客様なので、当然旅行知識があり、それ以上のレベルの知識を身に着ける必要がありました。質問などは専門的な要素が多く、より深いところまで勉強する必要がありました。

旅行代理店時代は国内、海外旅行と広く扱っていたので、旅行リテラシーは「浅く、広く」でしたが、ランドオペレーターになってからは「深く、狭く」となり、同じ旅行業でも全くの別の業種でした。

研修として、1か月間、タイ、シンガポール、マレーシア各国を視察というか、海外旅行をしながら専門的な知識を身に着け、旅行会社冥利につけるビジネストリップを体験させてもらいました。

帰国後は、自信をもって営業に取り組むことが出来、ランドオペレーターという仕事にやりがいを感じ、ここでも沢山のお客様と出会い、沢山の経験をさせて頂きました。



研修時代 タイ バンコク エメラルド寺院



研修時代 タイ バンコク王宮



研修時代 タイ チェンマイ エレファントキャンプ



研修時代 タイ チェンマイ首長族集落にて

4. シンガポール支店での5年間

東京営業所で1年半営業をした後に、海外転勤の辞令が出て、1995年7月にシンガポール支店へ 2000年6月まで約5年間勤務しました。

シンガポールを簡単に説明しますと、マレー半島の南端に位置し、マレーシアとインドネシアに隣接しています。

熱帯性の気候で一年を通して高温多湿。季節の変化はあまりなく、雨季と乾季は存在しますが、毎日が常夏なので、新潟のように、はっきりとした春夏秋冬が無いのが少し残念でした。

面積は約728平方キロメートル。佐渡島の3分の2くらいの面積です。シンガポールは小さな島国ではありますが、人口密度の高い都市国家でもあります。民族構成は大多数の中華系と、マレー系、インド系、その他、多民族国家です。言語はマレー語、タミール語、中国語とあり、公用語として基本は英語です。



シンガポールの象徴「マーライオン」
顔がライオンで胴体が魚という架空の動物

私が就任していた1995年～2000年の人口は約300万人。そのうち駐在員や留学で来ていた日本人は3万人程で、思っていた以上に日本人が多いのには驚きました。

日系企業のシンガポール支店が沢山あり、駐在員とその家族も一緒に来ている方が多く、日本人幼稚園、小学校、中学校、高校までありました。更に、日本人会という組織もあり、会の建物内には立派な図書館や、和食レストランもあり、お盆の時期は夏祭り、冬は餅つき大会などが開催されて常に日本人でにぎわっていました。

私が勤めていた会社は、中国系シンガポール人を中心にマレーシア人、インド人、スイス人、日本人(私)と合計15人位の様々な民族で構成されていたので、社内の共通語は英語でした。英語は学生時代に海外旅行である程度話せると思っておりましたが、ビジネスとなると、全くレベルが違い、相手が話している内容が理解できず、うまく話すことも出来なく、最初はとてショックでした。ただ面白いもので、毎日英語を話さなくてはならないため、数か月後、自然と言っていることが理解出来るようになり、会話ができるようになりました。

その当時の英語に関わる忘れられない出来事がありましたので紹介させていただきます。

沖縄県の200人近い高校生の修学旅行を担当した際、現地のバス会社が到着時間を1時間遅く間違え、お客様に待って頂くことになりました。時間の経過と共に生徒及び先生達の機嫌が悪くなり、責任者である私にそのストレスが襲いかかってきました。ようやく到着したバスドライバーのうちの1人が、悪気もなくへらへら笑っていた様子に頭にきた私は、「F?CK YOU!」と怒鳴ってしまいました。

その言葉を発した瞬間、ドライバー全員の顔色が変わり、仕事を放棄してバスを引き揚げようとしていました。映画で、この言葉を頻繁に聞いており、咄嗟に言ってしまったのですが、この言葉は宣戦布告に値する事だと、その場にいたシンガポール人ガイドに言われました。

日本のお客様200人を残して、バス会社と私1人で戦える力が無いことが明らかに分かるため、シンガポール人ガイドに仲介に入ってもらい、不本意ではあったものの「私が悪かったので、どうか許してほしい。」と和解を求めバスの業務に戻ってもらい大事に至りませんでした。これを機に、「F」という単語が私の辞書から無くなり、シンガポール5年間の中で忘れる事の出来ない苦くて貴重な体験となりました。

5. シンガポールのグルメ

シンガポール生活の楽しみは、何といってもグルメです。

オフィスは銀座のような繁華街「オーチャード」というエリアにありました。住まいはオフィスから徒歩10分以内にある好立地条件の3LDKのマンションを用意してもらいましたが、値段が高いため、シェアルームでポルネオ人とマレーシア人と私の3人での共同生活でした。

イスラム教を重んじる(ムスリム)シェアメイトは、朝晩と部屋からお祈りのコーランが聞こえてきます。

冷蔵庫も洗濯機もキッチンも共同なので、冷蔵庫には、珍しい果物や野菜があり、特にドリアンの匂いには驚かされましたが、次第においしく感じるようになりました。

時々共同キッチンでお互いの国の料理を作り、食べあったりしていましたが、ムスリムは豚が神なので、ハラールをというイスラム教の教えにおいて許される調理法や食文化があるという事を、そこで知りました。

さらに、ムスリムには断食が1年に1回あり、その時期になると夜まで食事が出来なくなり、日本の食生活とは全く異なりましたが、とても新鮮で、楽しいシェアルーム生活でした。

シンガポール人の食生活は朝昼晩3食ほぼ毎日ホーカーセンターでの外食でした。

ホーカーセンターは、シンガポールのストリートフード文化の中心で、屋台料理を提供する場所です。地元の人々や観光客にとって、安価で美味しい食事が楽しみの一つでした。

シンガポールの食文化は、その多様性と豊かさで世界的に知られています。これは、シンガポールが多文化社会であり、さまざまな民族と宗教が共存していることに由来しています。シンガポールの食文化には、中国、マレー、インド、ヨーロッパなどの影響が見られ、それらが融合して独自の料理が生まれました。私がホーカーセンターでよく食べていた料理を紹介します。

「チキンライス」：海南島から伝わった料理で、茹でた鶏肉とそのスープで炊いたご飯を共に食べるシンプルで人気のある一品です。

「バクテイ」(肉骨茶)：豚の骨付き肉を煮込んで作られるスープ料理で、シンガポールやマレーシアの伝統的な料理の一つです。「バクテイ」は中国語で「肉骨茶」と書き、実際にはお茶が入っているわけではなく、スープをお茶のように楽しむことからその名がついたとされています。



チキンライス



肉骨茶 (バクテイ)



チリクラブ

豚肉を骨ごとじっくりと煮込み、ガーリックや漢方薬、スパイスを使って味を調えます。シンガポールスタイルのバクテイは、一般的にスープがクリアで、胡椒が効いたピリッとした味わいが特徴です。ご飯や油条(中国式揚げパン)と一緒に食べる事が多く、スープの旨味を堪能しながら、ボリューム満点の食事を楽しむことができます。早朝にお客様を空港まで送り、その後、朝食にガッツリ食べるのが楽しみでした。

「チリクラブ」：シーフード料理の一つで、観光客や地元の人々に非常に人気があります。主に泥蟹(マッドクラブ)を使用し、甘辛いチリソースで味付けされています。ソースは、トマトケチャップ、チリペースト、ニンニク、ショウガ、タマネギなどを使用して作られ、甘さと辛さが絶妙に調和した味わいが特徴です。残った濃厚なチリソースを蒸したパン(マントウ)やご飯と一緒に食べると絶品でした。

シンガポールには多くのチリクラブの名店がありますが、中でも「ジャンボシーフード」や「ノーサインボードシーフード」が特に有名です。また、辛さの調整ができる店もあるので、辛さが苦手な人でも安心して楽しめます。

これら3点はシンガポールを訪れる際には、ぜひ一度は試してみる価値のある料理です。

6. おわりに

私が暮らしていた24年前のシンガポールには無かった珍しい建物があります。

皆様ご存じの、マリーナベイサンズやガーデンバイザベイが現在のシンガポールのランドマーク的な存在となっています。

シンガポールは絶対に地震が来ないと言われており、昔から目を引くような建物がいくつもありましたが、万が一、地震が来たら耐久性とかどうなのか? 素人の私が心配してしまうほど、インパクトがあり、斬新な建物が数多くあります。

皆様にとって、興味を惹かれる建築物や、歴史や文化が沢山ある魅力的な国だと思います。

ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。



ガーデンバイザベイ、マリーナベイサンズ

海岸特別清掃活動

「みんなできれいにせんまいけ!大作戦2024」

〈広報部会 広報委員会〉

1. はじめに

建設コンサルタント協会北陸支部の富山地区会員は、令和6年7月7日に富山県高岡市松田江浜で実施された「みんなできれいにせんまいけ!大作戦2024」に参加し、海岸特別清掃活動に取り組みました。高岡での海岸清掃は昨年、一昨年に続き3回目の参加となりました。

今年の大作戦は、富山県、市町村、富山県環境保健衛生連合会、各市町村環境保健衛生協議会、(公財)とやま環境財団、富山県県土美化推進県民会議が主催となり、様々な企業と団体、市民が協働し、『身近なゴミ拾いにより、「世界で最も美しい富山湾」を守ろう!』また『上流・下流の住民一人ひとりがゴミを減らす取組を「ありがとう」で繋ぎ富山湾がきれいになる様子をみんなで発信していきましょう』を合言葉に開催されました。

今年の清掃イベントについては7月から9月に高岡市を含む県内15の市町村で開催が予定されています。



海岸清掃の様子

2. 当日の様子

この日は、角田高岡市長、見角県高岡土木センター次長をはじめ、美しいまちづくり高岡市民連絡会議関係団体、とやま海ごみボランティア部、近隣の高岡市立太田小学校の子供たちを含む1,600人が参加し、建設コンサルタント協会からは、富山地区会員20人が活動に参加しました。会員は、朝8時から雨晴海岸～松田江浜までの区間で海に漂着した大きな流木から、細かなプラスチックごみに至るまでの清掃活動に汗を流しました。また、主催者から注意喚起があるほど、早朝より猛暑となり皆さん熱中症対策をしながらの作業となりました。



集合写真

3. おわりに

今後は、近年全国各地で発生している自然災害、異常気象への対策やインフラ整備の重点施策である国土強靱化、防災・減災対策、老朽化対策などでコンサルタントに求められる役割が非常に重要であることに自負しながら、このような活動・取組を通じて建設コンサルタント業をより多くの方に認識していただけるよう、これまで以上に多くの活動を推進していきたいと感じました。

お知らせ

技術セミナー 脱炭素時代における 小水力発電の果たす役割 開催報告

〈技術部会 建設環境委員会〉

1. はじめに

地球温暖化対策が喫緊の課題となるなか、政府はGX（グリーントランスフォーメーション）の実現に向けて基本方針を閣議決定するとともに、国土交通省では「国土交通省グリーンチャレンジ」を策定するなど、脱炭素化社会に向けた施策を加速させています。このような背景を踏まえ、本技術セミナーは、GXの全体像を捉えるとともに、その重要な施策のひとつである地域再生エネルギーの導入に関する技術について学んでもらうことを目的に開催しました。

2. プログラム

場 所	タワー 111 4F スカイギャラリー (富山県富山市牛島新町 5-5)
日 時	令和6年8月22日(木) 13:00～17:00
参 加	協会員9名 (WEB配信27名)
次 第	<p>講義①：我が国におけるGXについて / 建設環境委員 竹野 茂樹</p> <p>講義②：脱炭素時代における小水力発電の果たす役割 / 富山国際大学 教授 上坂 博亨氏</p> <p>現地視察 「富山市次世代エネルギーパーク 常西公園小水力発電所及び東町・東新町公民館小水力発電所」</p> <p>案 内 富山市環境政策課 主査 土地 淑子氏 主事 山井 力斗氏</p>

3. 開催概要

以降、講義及び現地視察の概要です。

3-1. 講義：我が国におけるグリーントランスフォーメーションについて

GX（グリーントランスフォーメーション）とは、従来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心の経済社会システムへ変革する取組みのことである。この背景にあるのは、地球温暖化であり、地球温暖化防止のため、我が国では、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言している。

我が国のGXの基本方針のひとつは、「エネルギー安定供給の確保を大前提としたGXの取組」で、これは再生可能エネルギーの主力電源化、原子力の活用等のことである。ふたつめの方針は「成長志向型カーボンプライシング構想等の実現・実行」で、これは今後10年間で150兆円以上の官民GX投資を実現するため、新たにGX経済移行債を創設し、投資を支援するものである。



竹野委員の講演の様子

3-2. 講義：脱炭素時代における小水力発電の果たす役割

富山県では昔から螺旋水車(低落差で発電する水車)が稼働しており、1930年頃には約1万台があったとされる。技術的・経済的に利用可能な包蔵水力は、全国第3位の約130億kWh/年とされ、この値は富山県の消費電力約110億kWh/年を上回る。

FIT制度(再生エネルギー電力の固定買取制度)では1000kW未満を小水力発電のひとつの区分としており、富山県では現在57カ所が稼働しているが、大水力も含めた水力発電のポテンシャルは十分に大きいといえる。

小水力発電の事例を紹介する。富山県南砺波市五箇山は世界遺産にも登録される合掌造りの集落であるが、これを維持するためには、10年間隔で屋根の葺き替えが必要で、数千万円の費用の大半は所有者の負担となっている。

集落内の小瀬谷支流を調査したところ、十分な流量があり、小水力発電に適することが推定できたため、発電所を設置し、売電利益を屋根の維持に充てることとした。2016年に竣工した小瀬小水力発電所は、小瀬谷支流の砂防堰堤の天端を活用して取水し、総落差56.3m(有効落差52.4m)により水車を回転させ発電機を稼働させるものである。年間発電量は約97万kWで、一般家庭約200戸分に相当する。なお、総工費は約10年で償還する予定である。



富山県南砺波市五箇山の様子



小瀬小水力発電所の様子



上坂教授の講演の様子

福井県今立郡池田町水海地区は過疎化が進展している。このまま過疎化が進展した場合には限界集落となる恐れがあり、地区は小水力発電を設置し、売電利益を地域活性化の活動費に充てることとした。水海川小水力発電所は、先の五箇山同様に、地区を流れる水海川の堰堤より取水し、総落差44.0m(有効落差40.0m)により水車を回転させ発電機を稼働させるものである。年間発電量は約131万kWである。地区ではこの売電利益を活用し、環境整備(植樹、蜚の再生)、産業の育成(農産物の販売促進、観光促進)、文化財の保存等を行う計画をたてている。



発電所名	水海小水力発電所
総落差(m)	44.0
有効落差(m)	40.0
使用水量(m ³ /s)	0.69
水車効率(想定)	72%
最大出力(kW)	199 kW
設備利用率	約75%
年間発電量(kWh)	約1,310,000

水海川小水力発電所の様子

富山市熊野地区は住宅と水田が混在する地区で、近隣にある土川の氾濫の危険性がある。その際に想定される広域停電による避難所への電力消失の不安があり、小水力発電を設置による避難所への電力供給を検討している。地区には二つの排水路が流下しており、この流末部の水を利用した発電を検討する。現時点での調査の結果、発電に適する流量が十分にあることから、地域電力として十分に利用可能である。

このように、住民主体の小水力発電は、売電利益だけでなく、「地域が抱える問題を解決するための糸口」、「地域住民の自発的挑戦の誘発」、「地域の持続的発展の変革」をもたらすものとする。

3-3. 現地視察「富山市次世代エネルギーパーク 常西公園小水力発電所及び東町・東新町公民館小水力発電所、富山市営農サポートセンター」

富山市次世代エネルギーパークとして位置づけられる3施設を視察した。

富山市上滝地区にある常西公園小水力発電所及び東町・東新町公民館小水力発電所は、一級河川常願寺川より取水する常西合口用水に整備された小水力発電所である。常西公園小水力発電所では、昔ながらの木材でできた開放型下掛水車を回転させ発電している。一方の東町・東新町公民館小水力発電所は、地中の水圧管路に水を流し込み水車によりタービン(発電機)を回転させ発電している。



常西公園小水力発電所



東町・東新町公民館小水力発電所

4. 今後の展開 (おわりに)

富山市営農サポートセンターは、富山型低炭素化モデル事業として、再生可能エネルギーを活用した農業活性化の取組みを行っているもので、農業用水を活用した小水力発電、農地を活用したソーラーシェアリング、地下水を活用したヒートポンプ等の施設が整備されている。

いずれの施設も先進モデル事業としての役割が強く、実用性については検証段階であるとのことであった。

本技術セミナーの開催にあたっては、講師である上坂教授、富山市をはじめとする関係者様より多大の協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

さて、建設環境委員会では、毎年、建設環境に関連する技術セミナーを開催しています。来年度も是非参加ください。



富山市営農サポートセンター 農業用水を活用した小水力発電



富山市営農サポートセンター 農地を活用したソーラーシェアリング

お知らせ

令和6年度
北陸支部防災演習

〈災害対策部会・総務委員会〉

1. はじめに

令和6年は、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」による甚大な被害の発生、他には台風による被害など、国内で発生する自然災害は後を絶たない状況となっています。また、8月8日には日向灘を震源とするM7.1の地震発生に伴い「南海トラフ地震臨時情報」が気象庁から発表され、大地震の発生が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられる状況が生じました。

2. 演習の概要

災害に対する備えの重要性から、毎年、「防災の日」において午前は北陸支部、午後は建設コンサルタンツ協会本部（以下「建コン協本部」という。）による防災演習を実施しています。

本稿では北陸支部防災演習について整理します。

日時	令和6年9月2日(月) 8:30～11:35 ※同日の13時から15時は建コン協本部による災害時対応演習を実施。
目的	北陸支部での体制確立・情報伝達訓練と関係機関や関係団体との連絡等が正常に機能するか確認する。
想定災害	長岡平野西縁断層帯による地震災害
演習に参加した関係機関・関係団体	
<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省北陸地方整備局（以下、「北陸地整」という。） 新潟県土木部監理課、新潟地域振興局地域整備部 （一社）全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会（以下、「全地連北陸」という。） （一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会（以下、「全測連北陸」という。） 	
参加者	<p>[現地本部] 吉野支部長、大平副支部長、渡邊運営委員長、高橋技術総括指揮者、田崎副責任者、青木総務部会長、清原総務委員長、佐藤（雄）委員、浜辺委員、今野委員、熊倉委員</p> <p>[富山] 古池技術総括指揮者</p> <p>[石川] 西川副責任者</p> <p>[事務局] 佐々木事務局長</p>



写真-1 災害対策北陸現地本部の様子

3. 演習のポイント

昨年度の演習では大きな問題はなかったことから、改善を図るような新たな取り組みではなく、基本的な取り組みを継続して実施することにしました。

以下に主な取り組みを示します。

(1) 北陸支部での体制確立・情報伝達訓練

- ①新潟市内の参集対象者が、参集連絡を受けてから所定の時間までに集まり、災害対策現地本部設置に関して協議する。
- ②支部会員会社とは、個社の被災状況確認を行うとともに、災害協定に基づく応援要請に備えた調査出勤等の可否について確認する。

なお、この確認連絡は各社の災害担当責任者（正・副）の2名に対して行い、その回答は1時間以内での返信協力を依頼して実施した。

(2) 関係機関や関係団体との連絡等

- ①関係機関からの応援要請とその回答をメールとWEBにより実施する。
- ②関係団体とは応援要請の内容を共有するとともに、役割分担を協議する。また、役割分担を踏まえた対応会社の報告を受ける。
これらについては、関係機関との対応と同様にメールとWEBにより実施する。

4. 演習スケジュール

主なスケジュールを表-1に示します。

表-1 スケジュール

時分	項目	情報伝達	
		発信者	受信者
6:00	地震発生	長岡平野西縁断層帯でMw7.5の地震発生	
8:30	支援要請(北陸地整)	北陸地整	新潟技術総括指揮者
8:40	参集確認	新潟技術総括指揮者	支部長
8:45	参集連絡	新潟技術総括指揮者	新潟副支部長、運営委員長、総務部会長、新潟副責任者
		総務部会長	新潟総務委員
9:15	北陸支部会議	北陸支部にて現地本部設置に関する協議	
9:20	災害対策北陸現地本部設置	現地本部(事務局)	支部会社会社・災害対策委員
			富山・石川の技術総括指揮者・副責任者
			北陸地整、新潟県監理課
			全測連北陸、全地連北陸
9:25	会員会社の状況把握	現地本部(新潟副責任者)	新潟の正・副災害担当責任者
		富山・石川の技術総括指揮者又は副責任者	富山・石川の正・副災害担当責任者
9:30 ~9:40	要請内容の詳細連絡(北陸地整)	北陸地整防災室	現地本部
9:45 ~9:55	要請内容の共有・分担確認	現地本部	全測連北陸、全地連北陸
10:05 ~10:20	支援要請(新潟県)	新潟地域振興局地域整備部	現地本部
10:25	会員会社の状況報告 [要請から1時間経過時]	総務部会長	現地本部
		富山・石川の技術総括指揮者又は副責任者	
10:35	関係団体からの報告	全測連北陸、全地連北陸	現地本部
10:45	支部対応可能会社の報告	総務部会長	現地本部
11:00 ~11:10	支援要請に対する報告(北陸地整)	現地本部	北陸地整
11:15 ~11:20	支援要請に対する報告(新潟県)	現地本部	新潟地域振興局地域整備部
11:25	会員会社の状況報告 [要請から2時間経過時]	総務部会長	現地本部
		富山・石川の技術総括指揮者又は副責任者	
【災害発生より90日経過を想定 令和6年12月1日】			
11:30	災害対策北陸現地本部解散	現地本部(事務局)	支部会社会社・災害対策委員
			富山・石川の技術総括指揮者・副責任者
			北陸地整、新潟県監理課、新潟地域振興局地域整備部
			全測連北陸、全地連北陸
11:35	支部演習総括	北陸地整、新潟県新潟地域振興局、北陸支部(現地本部、富山、石川)	

5. 演習の結果について

(1) 体制確立・情報伝達訓練

参集対象者は所定の時間までに参集でき、災害対策現地本部設置協議の実施と会員会社や関係機関等に現地本部設置について適切に連絡することができた。

本演習では限られた時間の中で取り組む必要があることから例年と同様に1時間以内での返信協力を依頼した。

実施した結果、1時間以内返信は昨年と比べると劣ったものの90%と高い返信状況であった。

表-2 メール の 時間別返信状況

訓練では1時間以内回答を求めて実施

	対象会社	返信時間別の状況		計
		1時間以内	1時間を超え2時間以内	
新潟地域	43社	39社	4社	43社
富山地域	11社	11社	—	11社
石川地域	9社	7社	2社	9社
合計 [返信率]	63社	57社 [90%]	6社	63社 [100%]
参考:R5年度 [返信率]	61社	58社 [95%]	3社	61社 [100%]

なお、返信の際にメール件名に社名を記してもらうように明記して連絡したが、社名未記載は全体で2社あり、昨年度と同様の結果であった。また、各社からの回答は、毎年、正、副の両者から別々に届くことがあったが、今年はそのようなことはなく、個社の中で情報共有が図れ、回答してきたものと推測される。

表-3 社名未記載と重複返信の状況

	新潟地域	富山地域	石川地域
メール件名に会社名未記載	1社(2社)	0社(0社)	1社(0社)
正・副の両者から連絡が届いた	0社(2社)	0社(0社)	0社(0社)

※()はR5年度の状況を示す

富山、石川の技術総括指揮者等からはメールだけでなくWEBも活用して報告してもらった。昨年の演習では一部で通信接続に手間取った状況があったが、今回は支障なく対応することができた。



写真-2 富山、石川とのWEB報告の様子

(2) 関係機関や関係団体との連絡等

関係機関や関係団体とは所定の様式等を用いながら、改めて対応する手順を確認することができた。また、WEBの活用では支障なく対応することができた。



写真-3 関係機関・関係団体とのWEB連絡等の様子

6. 総評

今回の演習では大きな課題はありませんでした。

演習後に行った総括においていただいた主な意見等を以下に示します。

①北陸地方整備局 統括防災官

能登半島地震だけでなく、現在、全国的に猛威をふるっている台風10号など、全国各地で多くの災害が発生しています。

災害が発生した際は関係者間で情報伝達が適切に行えるかという点が極めて重要であり、そのためにも今回のような初動時を対象とした防災演習は大変重要であると感じました。

②新潟地域振興局 地域整備部副部長

従来、緊急時では電話等で対応していますが、WEBを通じて行った今回の演習は、他機関と合同で行ったこともあり1対1のやりとりではなく、それぞれの様子を知ることができて大変良いものと感じました。今後の災害発生時も新たな手法を取り入れながら、確実に速やかな対応に繋がるように取り組むことの大切さを感じました。

③建設コンサルタンツ協会 北陸支部長・副支部長

今回の防災演習は初動時の適切な情報伝達を目指して、多様な関係機関や関係団体とWEB等によって連絡・調整を実施しました。

全国各地では災害が多発しているとともに、現在、台風シーズン真っ只中で、いつ新たな災害が発生するか分からない状況です。

このような状況でもあることから、建設コンサルタントとして災害に強い地域づくりに寄与しつつ、今回の演習を生かした適切な対応が図れるように取り組んでいきたいと思います。

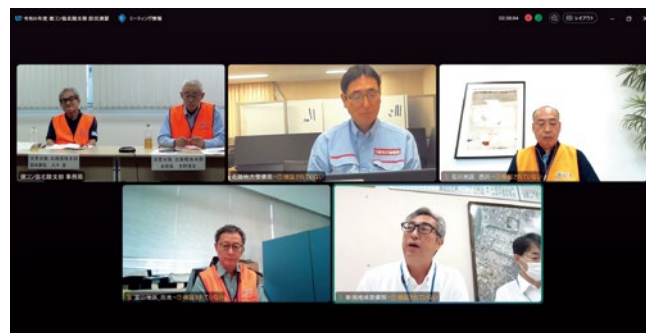


写真-4 総括の様子

7. おわりに

北陸地方では大きな影響を受けていないとはいえ、台風10号が全国的に猛威をふるっている中、北陸支部の防災演習に参加していただきました北陸地方整備局、新潟県土木部監理課、新潟地域振興局地域整備部、(一社)全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会、(一社)全国地質調査業協会連合会北陸地質調査業協会の皆様に多大なるご協力を頂きましたことを、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 会 員 名 簿

令和6年10月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
(株)エース	石川営業所	922-0105 加賀市山中温泉泉町159番地	0761-78-1378 0761-78-1378
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
(株)基礎建設コンサルタント	北陸支店	921-8146 金沢市額乙丸町ニ200番地	076-220-7990 076-220-7991

会社名	事業所名	住所	電話番号 FAX番号
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0915 新潟市中央区鏡西1-7-5 エスポワール新潟1F	025-282-7385 025-282-7387
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
(株)三協技術	北陸支店	920-0901 金沢市彦三町1-1-1 金沢彦三111ビル	076-256-5530 076-256-5531

会社名	事業所名	住所	電話番号 FAX番号
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)スリーエスコンサルタンツ	北陸支社	926-0867 七尾市桜町12	0767-58-5505 0767-58-5506
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本ダイヤコンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
NiX JAPAN(株)		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671

会社名	事業所名	住所	電話番号 FAX番号
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員会名簿

令和6年10月1日現在

北陸支部役員			
支部理事	支部長	吉野 清文	開発技建(株)
〃	副支部長	大平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡辺 正三	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	副支部長	新家 久司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	渡邊 雅樹	開発技建(株)
〃	運営委員	黒木 康生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	笹谷 輝彦	(株)国土開発センター
〃	運営委員	大浜 正人	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	小見 直樹	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	岩澤 弘和	(株)構造技研新潟
支部監事	支部監事	佐々木 大介	(株)ナルサワコンサルタント
〃	支部監事	高野 一博	大原技術(株)

対外活動部会			
	部会長	吉野 清文	開発技建(株)
	部会員	大平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡辺 正三	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	部会員	新家 久司	(株)国土開発センター
	部会幹事	飛田 潤一	開発技建(株)
	部会員	田中 義明	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	部会員	長森 孝司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡部 長務	エヌシーイー(株)
	部会員	山田 幸男	(株)建設技術研究所
新潟地域委員会	委員長	岩澤 弘和	(株)構造技研新潟
〃	委員	田邊 敏夫	(株)クリエイトセンター
〃	委員	中田 一男	開発技建(株)
〃	委員	坂西 和也	エヌシーイー(株)
〃	委員	外川 忠利	(株)キタック
〃	委員	坂井 徹	旭調査設計(株)
富山地域委員会	委員長	柴田 聡	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	田中 義明	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	榮 知之	北陸コンサルタント(株)
〃	委員	吉田 勉	(株)上智
〃	委員	泉 英樹	大日本ダイヤコンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新家 久司	(株)国土開発センター
〃	委員	長森 孝司	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	二俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青木 和之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清原 宏二	開発技建(株)
〃	委員	佐藤 雄一	(株)構造技研新潟
〃	委員	浜辺 良彦	相互技術(株)
〃	委員	今野 健	エヌシーイー(株)
〃	委員	熊倉 孝次	(株)クリエイトセンター
〃	委員	泉 英樹	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	浦 正光	(株)日本海コンサルタント
倫理・法令委員会	委員長	須田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委員	飯田 雅之	開発技建(株)
〃	委員	青木 秀典	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	河原 健二	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	新田川 貴之	(株)国土開発センター

技術部会			
	部会長	神田 和久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤巻 智之	開発技建(株)
〃	委員	真嶋 利寿	エヌシーイー(株)
〃	委員	大塚 秀行	(株)キタック
〃	委員	杉野 亨	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委員	武沢 直貴	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	加藤 毅	(株)クリエイトセンター
〃	委員	高橋 辰夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	伊藤 信哉	開発技建(株)
〃	委員	阿左美 敏和	(株)建設技術研究所
〃	委員	西川 幸成	(株)国土開発センター
〃	委員	藤原 大佑	五大開発(株)
〃	委員	太原 晶	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	浦田 斉	エヌシーイー(株)
〃	委員	波多野 勝弘	相互技術(株)
〃	委員	伊藤 正喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委員	須佐 慎	開発技建(株)
〃	委員	吉田 要	(株)クリエイトセンター
〃	委員	相田 守	(株)キタック
〃	委員	木下 裕康	(株)国土開発センター
〃	委員	美作 知弘	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	藤本 勇一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	脇坂哲也	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	田村康裕	開発技建(株)
〃	委員	渡邊敦	エヌシーイー(株)
〃	委員	門口健吾	(株)キタック
〃	委員	佐藤良晴	(株)構造技研新潟
〃	委員	浦修造	(株)国土開発センター
〃	委員	鷹西輝	(株)東洋設計
〃	委員	寺田直樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委員	塚嶋雅則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	須貝浩	エヌシーイー(株)
〃	委員	今度充之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委員	麻田正弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委員	松尾内助	(株)キタック
〃	委員	長谷川哲也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委員	辻本勝彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩渕和有	エヌシーイー(株)
〃	委員	村田亨	開発技建(株)
〃	委員	荘司洋文	(株)キタック
〃	委員	森川大輔	(株)国土開発センター
〃	委員	酒井信次	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	眞島俊光	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	八鳥直哉	開発技建(株)
〃	委員	稲葉弘之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委員	若尾明弘	エヌシーイー(株)
〃	委員	竹野茂樹	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	上田拓哉	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	辰橋浩二	(株)国土開発センター
〃	委員	廣井敏樹	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	中野達也	(株)日本海コンサルタント
〃	サブリーダー	小倉匡介	開発技建(株)
〃	委員	濱田康行	(株)国土開発センター
〃	委員	庭山雄太郎	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委員	小口祐樹	(株)キタック
〃	委員	杉田友樹	(株)建成コンサルタント
〃	委員	本間千悠	(株)構造技研新潟
〃	委員	佐久間佑多	相互技術(株)
〃	委員	楡井将真	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
広報委員会	委員長	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	加 藤 克 裕	(株)キタック
〃	委 員	高 澤 正 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	坂 原 徹	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	吉 村 誠 一	(株)国土開発センター
〃	委 員	泉 田 洋	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	本 間 拓 海	(株)建設技術研究所
会誌編集委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	太 田 博 昭	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	澤 田 伸 也	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	山 田 嘉 貴	(株)クリエイトセンター

災 害 対 策 部 会			
	部会長	吉 野 清 文	開発技建(株)
新潟現地对策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	田 崎 友 康	開発技建(株)
富山現地对策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	古 池 豊	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	副責任者	青 木 秀 典	大日本ダイヤコンサルタント(株)
石川現地对策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	七 郎 丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飛 田 潤 一	開発技建(株)
〃	委 員	古 池 豊	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	七 郎 丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	武 沢 直 貴	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

事 務 局			
	事務局長	佐々木 清 一	

編集後記

2024夏季オリンピック・パラリンピック（パリ）が閉幕しました。各アスリートの活躍に一喜一憂し、寝苦しい暑さや時差ボケの関係で体調がすぐれない方も多くおられたのではないのでしょうか

今年、7.13水害（新潟福島豪雨）や中越地震から20年の節目の年にあたります。

正月に発生した能登半島地震を皮切りに、震度5以上の地震が、佐渡付近、茨城県南部、岩手県沿岸部、鹿児島県大隅半島、豊後水道、台湾東部、日向灘で発生、更に梅雨後半（7月末）の豪雨により秋田・山形県内で河川氾濫や土砂災害等、8月には日向灘で発生した地震を契機とした「南海トラフ地震臨時情報」が発令され、台風10号による暴風・大雨による水害等、各地で災害が続発しております。

そんな中、9月1日の「防災の日」を迎え、防災グッズ等を再度確認された方も多いと思います。我が家でも改めて確認しましたが、期限切れやら足りない物が多く、ホームセンター等で慌てて買いそろえた次第です。

実は、「防災の日」以外にも、災害関連の日はいろいろと制定されており、8月26日は「火山防災の日」、11月5日が「津波防災の日」として制定されております。

私自身「火山防災の日」「津波防災の日」の存在を知らずに、こうして文章に書くこと自体恥じ入るばかりですが、改めて災害に対する備えを今一度したいものです。

澤田伸也

発行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 高橋宏明

委員 / 澤田伸也 古橋伸彦 太田博昭 山田嘉貴



発 行

一般社団法人 建設コンサルタント協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<https://hr-jcca.jp/>